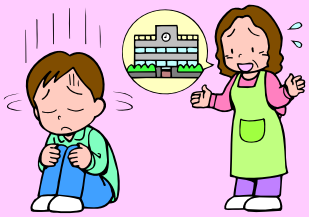
3. いじめ

どうしていじめが起きるのか、いじめを防ぐにはどうしたらよいかを家族で考えましょう。いじめの兆候に気づいていますか？

子どもの変化チェックポイント　～こんなことがあったら要注意～

- □ 不審な電話がかかってきて、表情が暗くなったり、ため息をついたりする。
- □ 感情が不安定になり、口数が少なくなって、部屋に閉じこもりがちになる。
- □ テレビゲーム等の持ち物を売り出したり家庭から金品の持ち出しが頻繁になったりする。
- □ 衣服の異常な汚れや、けがやあざが見られる。
- □ 布団から出たがらず、顔色がすぐれない。
- □ 食欲不振や腹痛、吐き気などを訴えるようになる。
- □ 突然、転校したい、学校に行きたくないなどと言いだす。
- □ 急に成績が落ちたり、勉強の意欲がなくなったりする。
- □ 急に弟や妹などの弱者に暴力を振るうようになる。
- □ 学用品等がしばしば紛失したり、壊されたりしている。



（千葉県教育委員会　人権教育リーフレットより抜粋）

いじめは人間として絶対にしてはいけないことです。
ご家庭でも折にふれ、話し合いをしてみてください。
～自分も人も大切に思える子を育てるために心を育て、心をつなごう～

子どもたちには、本当に「いじめは人間として恥ずべき行為である。」としっかり理解させましょう。「善悪の判断」「他人の痛みを感じる」「思いやり」などの心をしっかり育みましょう。

《悪いことは悪いとしっかりしつけよう》

- □ やってはいけないことや間違った行いはしっかり正している。
- □ 子どもに対して「自分の行動には責任がともなうこと」をきちんと話をしている。
- □ 自分の子どもだけ良ければという考えはしていない。
- □ 思春期の子どもから逃げずに正面から向かい合っている。
- □ どんな小さな変化でも、子どもの言動を見逃さないように注意している。
- □ 身の回りの小さなことから、命や環境を大切にする心を育てている。

《思いやりのある子どもを育てよう》

- □ 家庭で生活の決まりやルールをつくっている。
- □ 低学年から小さくとも家事を担わせ、責任や自立心を育てている。
- □ 朝の「おはよう」からはじめて、礼儀を身につけさせている。
- □ 子どもに我慢を覚えさせている。
  →物の買い与えすぎは、子どもの心をゆがめる。
- □ 家庭内の年中行事や催事を大切にしている。

《家庭で守るべきルールをつくろう》

- □ 祖父母を大切にする親の姿をみせている。
- □ 手助けの必要な人を思いやれるようにしている。
- □ 差別や偏見は許されないことに気づかせている。
- □ 生き物とのふれあいを通じて、思いやりの気持ちを育てている。

（市原市青少年指導センター　「もう一度家庭を見直そう」より抜粋）